

松本市時計博物館展示リニューアル基本計画 概要版

松本市時計博物館（以下「時計博物館」という。）は、「松本まるごと博物館構想」の中核施設である松本市立博物館の分館の一館として、また、中心市街地振興の拠点として平成14年9月に開館しました。全国でも有数の古時計コレクションを有し、市民はもとより観光で松本市を訪れる国内外の人々に広く親しまれています。

開館から20年以上が経過し、展示造作の老朽化や故障が散見されるほか、時計技師後継者の育成といった課題を抱えています。本計画は、こうした課題の解決に向けたリニューアルの方向性をまとめるものです。

I 現在の状況

[名称]	松本市時計博物館
[所在地]	松本市中央1丁目21番15号
[アクセス]	JR松本駅から徒歩10分
[開館年月]	平成14年9月1日
[管理運営]	市直営
[開館形態]	開館時間：午前9時～午後5時 休館日：毎週火曜、年末年始 観覧料：大人500円、小中学生200円
[入館者数]	令和4年度：合計数23,917人 (うち外国人652人) 令和5年度：合計数26,185人 (うち外国人2,033人) 令和6年度：合計数31,890人 (うち外国人3,136人)
[構造・規模]	鉄筋コンクリート造 4階建 延床面積（時計博物館部分）1,073.74㎡
[施設構成]	常設展示室（1,2階） 372.14㎡ 企画展示室（3階） 108.59㎡ 講座室（3階） 45.36㎡ 収蔵庫（3階） 55.70㎡

II 本計画の位置付け

本計画は、他の計画と整合をとりながら「松本まるごと博物館構想」を具現化するための計画として位置付けます。

【関連する計画】

- 松本市総合計画（基本構想2030・第11次基本計画）
計画期間：令和3～7年度
- 松本まるごと博物館構想 平成12年3月策定
- 松本市教育大綱 令和4年2月14日策定
- 第3次松本市教育振興基本計画
計画期間：令和4～8年度
- 第3次松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画
計画期間：令和7～11年度
- 松本市観光ビジョン 計画期間：令和6～10年度
- 松本市工業ビジョン中間見直し版_2023.5改訂
計画期間：令和5～9年度

III リニューアルの方向性

【基本理念】

世界的にも貴重な古時計コレクションを所有する松本市として、これらの資料を保存・活用し、未来に継承する。

役割 1 時計・時間という視点から松本の魅力を発信する。

役割 2 ものづくりの魅力を伝え、時計技術の継承に寄与する。

IV 展開する事業活動とリニューアルのポイント

- 「松本に時計博物館がある必然性」を伝える展示ストーリーを展開します。
- 子どもから大人まで、体験を通して理解を深める展示手法を導入します。
- 多様な人々にとって読みやすく、分かりやすい展示解説を導入します。
- 膨大なコレクションを活用するためのミニ企画展示スペースを設置します。
- 観覧のしやすさに配慮した展示空間演出を導入します。
- 公開型修理作業スペースを設置します。

V 展示計画

■展示リニューアルのポイント

- 時計を通してものづくりの街・松本の魅力を発信
- 時計の世界を楽しむ仕掛け
- 時計の魅力を伝える資料解説
- 「時計工房」の新設

■リニューアル後の展示構成とゾーニング

I 松本市と時計

産業工芸と言える時計を通して、ものづくりの精神が根付く松本の文化を魅力的に伝えます。

II 時計の歴史

時計の歴史が人類の歴史と密接な関係にあることを伝えます。

III 時計のしくみ

西洋で誕生した機械式時計と、日本の生活リズムを踏まえて改良された和時計とで違いがあることを伝えます。

IV 時計博物館コレクション

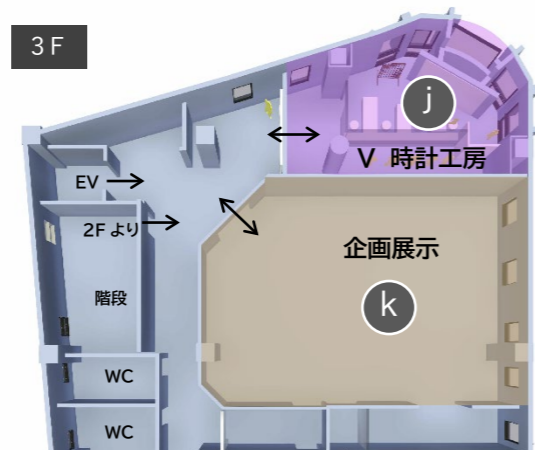
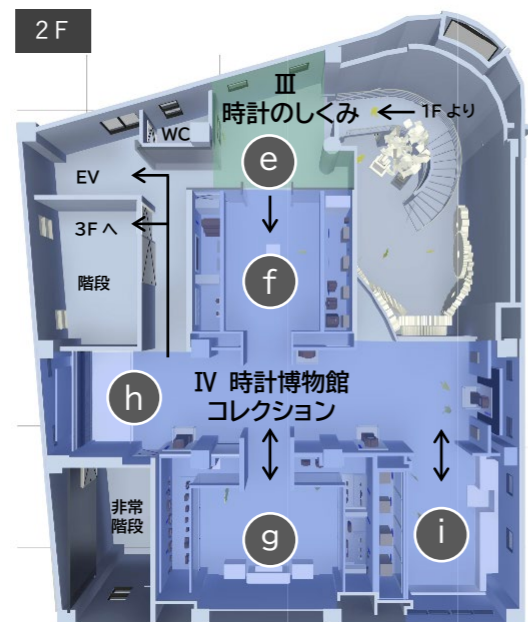
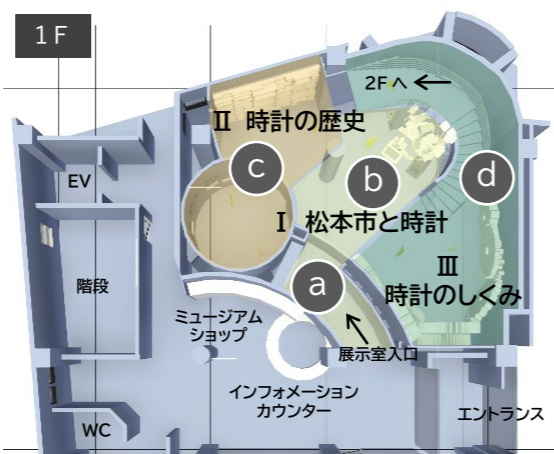
コレクションの独自性や価値を分かりやすく伝えます。

V 時計工房

時計の保存・公開を支える、日頃のメンテナンス作業の重要性を伝えます。

VI 企画展示

時計や時、城下町の文化などをテーマとした企画展を開催します。



I 松本市と時計

a. 松本と時計

時計博物館の開館に至る歴史やエピソード、さらに松本城下町の時の制度など、時を巡る歴史や文化、ものづくりなどの営み・魅力を紹介しします。



展示イメージ

b. 本田親蔵と古時計

古時計の収集と研究に情熱を燃やした本田親蔵の人物像と功績を紹介しします。コレクションの収集経緯や独力により制作したローリングボールクロックの制作ストーリーを通して、国内有数の古時計コレクションの価値を伝えます。



展示イメージ

II 時計の歴史

c. 古代から未来・現代の時計

古代から現代へ至る時計の歴史をたどり、時計の発展と社会の変化を実感するとともに、時計の未来を考えるきっかけを提示しします。



展示イメージ

III 時計のしくみ

d. 機械式時計のしくみ

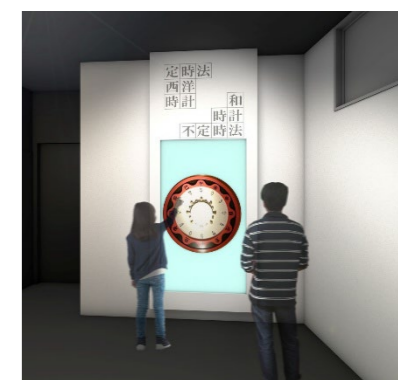
機械式時計が正確に時を刻むしくみについて、子どもたちにも分かりやすく、親しみやすい手法で紹介し、機械式時計への興味・関心を引き出します。



展示イメージ

e. 和時計のしくみ

不定時法を用いた和時計のしくみと、江戸時代の松本で取り入れられていた時報システムを紹介しします。松本城や市内に残る鐘楼などのエピソードを交えながら、時計を通して江戸時代の松本の暮らしを伝えます。



展示イメージ

IV 時計博物館コレクション

f. 時計コレクション

掛け時計や置き時計など多種多様な機械式時計の動態展示により、振り子の揺れる様子や時を刻む音を体験できるようにするとともに、時計を動かすメカニズムや機械式時計の見どころを伝えます。



展示イメージ

g. 西洋時計の世界

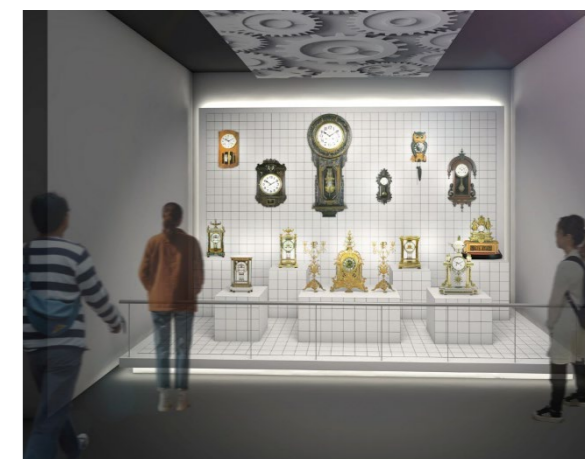
オランダ、スイス、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカのさまざまな時計を体系的に紹介しします。時を知らせるだけでなく、室内装飾としても発展した西洋時計の魅力を伝えます。

i. 蓄音機とSPレコード

ゼンマイを動力とする蓄音機の製造を、日本では時計職人が行っていたことを紹介するとともに、SPレコードの鑑賞や時計に関する図書の閲覧などを通して、ゆったりと過ごせる空間を提供しします。

h. ミニ企画展コーナー

時計博物館コレクションの中から、特定のテーマで選定した資料について紹介しします。



展示イメージ

※「ゾーニング」「展示イメージ」は基本計画段階のものであり、今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

V 時計工房

j. 時計の修理

公開型修理作業スペース「時計工房」を新設し、修理技術や工程、使用する工具等を具体的に紹介します。実際の作業風景を通して時計の修理技術を紹介し、機械式時計への興味・関心を高めます。



展示イメージ ※今後の検討や詳細設計により、変更される可能性があります。

■ 展示解説方針

展示リニューアルにあわせて、ゾーンサインやキャプション等のグラフィック要素について、全体に見直しを行います。

なお、英語表記については、展示室内のグラフィックには必要最低限の表示とし、詳細情報は別途対応を検討します（ポケット学芸員、英語版展示解説シート等）。

グラフィック要素

- ゾーンサイン：「I 松本市と時計」～「V 時計工房」まで5つのゾーン構成が明確に伝わるようなデザイン
- コーナーサイン：「a. 松本と時計」～「j. 時計の修理」までの各コーナーに、コーナーのタイトルとねらいを示すグラフィックを設置。統一したデザインで、ゾーンタイトルとの関連を視覚的に認識できるデザイン
- 見どころ解説：子どもにも分かりやすいよう、展示内容を補足する情報を掲載。全体を通して統一したデザイン
- 資料キャプション：各資料に資料名、制作年代、制作地等の情報を掲載。全体を通して統一したデザイン

VI 事業スケジュール

本事業は、令和9年度リニューアルオープンを目指して推進します。

松本市時計博物館
展示リニューアル基本計画
概要版
令和8年3月

発行 松本市立博物館分館 松本市時計博物館
〒390-0811 松本市中央 1-21-15
TEL：0263-36-0969 FAX：0263-36-0973
Eメール：tokei@city.matsumoto.lg.jp